

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第365回

長友佑都

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年8月1日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

## 失敗に終わっても チャレンジしたこと 後悔はない。

長友 佑都は、愛媛県東予市出身のプロサッカー選手。Jリーグ・FC東京所属。ポジションはディフェンダー、ミッドフィールダー。元日本代表。妻はタレントで女優の平愛梨。

### Column

長友選手といえば、小柄な選手でありながらフィジカルの強さに定評があり、常に献身的にプレーするディフェンダーというイメージですが、みなさんと同じ高校時代にはまだまだ無名選手だったそうです。また、大学進学まではポジションもミッドフィールダーであり、ポジション転向により資質が開花し、2年生の時にU-22日本代表に選ばれて脚光を浴びることになります。それにしても無名選手からポジション転向を経てたった2年弱で日本代表に選出されるとは驚きであり、“きっかけ”を掴んだ瞬間から一気に成長した裏には想像できないほどの努力があったのだらうと感じます。

人生の中で『これを頑張ることで自分が変わる（成長できる）かもしれない』と感じることにしばしば出会います。しかし、そのほとんどが“努力”や“時間”を要することです。様々なことを同時進行しながら生活している私たちですから、正直言って“面倒”“時間がない”といった『チャレンジしない理由』はいくらでも浮かんでしまいます。私もそういった時に『またあとで…』と思いながらチャレンジせずに終わったことや、そのことにチャレンジして成功した人のニュースなどを見かけた時に『自分もチャレンジしたらよかったな…』と後悔したことが数多くあります。改めてチャレンジしてみようと思っていることもあるのですが、当時ほど興味が持てず、なかなか動き出せずにいます。『この感情もチャレンジから逃げているからなのかな…』と、ここまで述べてきた中で感じています。では、長友選手はなぜこれまでのポジションから素直に転向を受け入れることができたのでしょうか。転向を指示した指導者への信頼感でしょうか。私は長友選手自身が自分を信じているからだと思いました。“自分はまだまだこんなものではない!!”という自身への期待から、常に成長へのきっかけを探していたからだと思います。よく“チャレンジ精神”という言葉を目にします。チャレンジ精神を身につけるには、チャレンジした自分を褒められるマインドを持つことからだと思います。成功にこだわることも重要だと思いますが、さらに重要なのは成長にこだわることではないでしょうか。